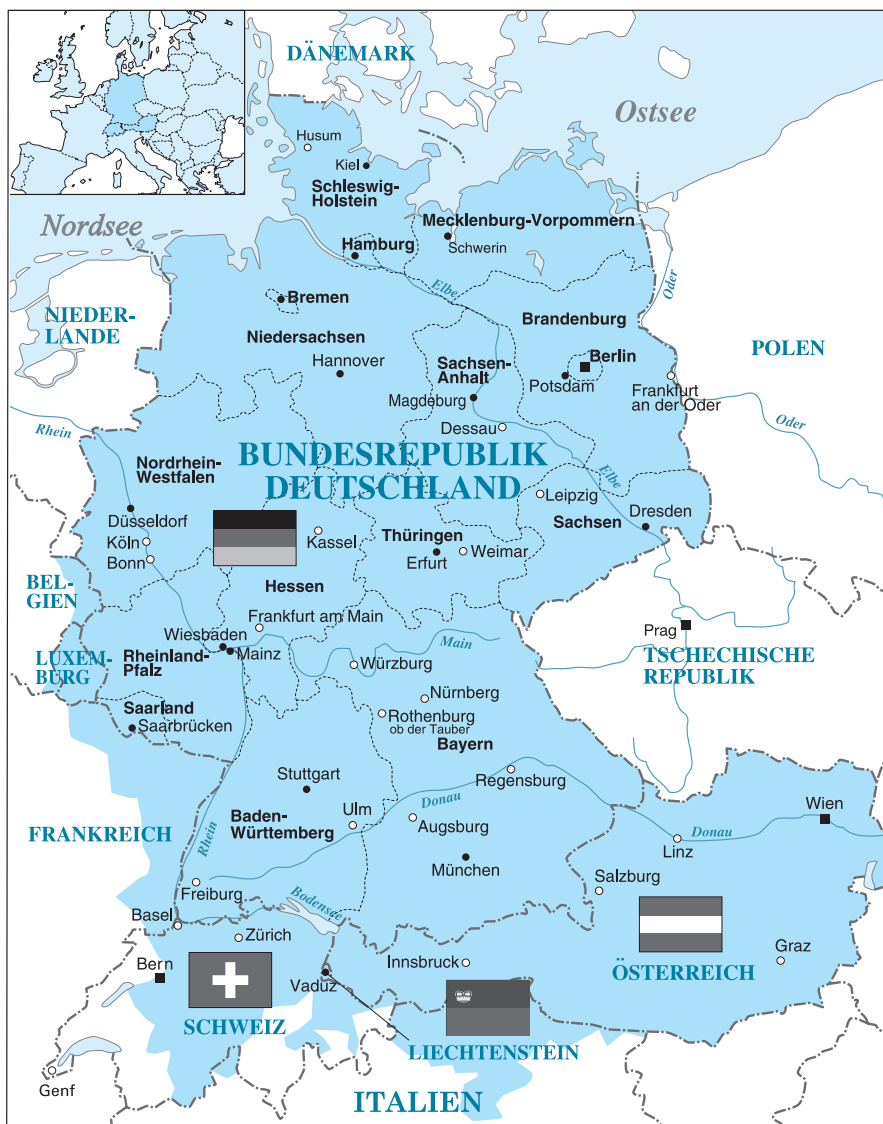


# 目次

Das Alphabet .....	i
発音とアクセント .....	ii
<b>Lektion 1</b> .....	2
<b>Teil 1</b> 1 動詞（語幹と語尾） 2 不定詞（句）とドイツ語の文の構成 3 重要な現在人称変化（不規則変化動詞）	
<b>Teil 2</b> 1 現在人称変化の補足説明 2 不定詞（句）の名詞的用法	
<b>Lektion 2</b> .....	6
<b>Teil 1</b> 1 名詞の性と定冠詞 2 定冠詞と名詞の格変化 3 定冠詞類	
<b>Teil 2</b> 1 名詞の複数形 2 不定詞の性	
<b>Lektion 3</b> .....	10
<b>Teil 1</b> 1 不定冠詞 2 不定冠詞類 3 男性弱変化名詞 4 格の働き（2・3・4格）の補足説明	
<b>Teil 2</b> 1 nicht の用法 2 unser, euer の格変化における -e- の脱落 3 不規則変化名詞	
<b>Lektion 4</b> .....	14
<b>Teil 1</b> 1 前置詞 2 幹母音の変化する du, er の定動詞	
<b>Teil 2</b> 1 前置詞の補足説明 2 幹母音の変化する du, er の定動詞の補足説明	
<b>Lektion 5</b> .....	18
<b>Teil 1</b> 1 接続詞 2 分離動詞と非分離動詞	
<b>Teil 2</b> 1 接続詞の補足説明 2 分離動詞と非分離動詞の補足説明	
<b>Lektion 6</b> .....	22
<b>Teil 1</b> 1 人称代名詞 2 再帰代名詞 3 不定代名詞	
<b>Teil 2</b> 1 人称代名詞の補足説明 2 再帰代名詞の補足説明	
<b>Lektion 7</b> .....	26
<b>Teil 1</b> 1 助動詞 werden 2 話法の助動詞 3 特殊な es	
<b>Teil 2</b> 1 助動詞の補足説明 2 特殊な es の補足説明	
<b>Lektion 8</b> .....	30
<b>Teil 1</b> 1 zu 不定詞 2 命令形	
<b>Teil 2</b> 1 zu 不定詞の補足説明 2 du の命令形の補足説明	

<b>Lektion 9</b> .....	34
<b>Teil 1</b> 1 動詞の3基本形 2 過去人称変化 3 haben を用いた完了時称	
<b>Teil 2</b> 1 規則動詞の3基本形の補足説明 2 不規則動詞の3基本形の補足説明 3 過去人称変化の補足説明 4 haben を用いた完了時称の補足説明	
<b>Lektion 10</b> .....	38
<b>Teil 1</b> 1 sein を用いた完了時称 2 受動文 3 過去分詞の用法	
<b>Teil 2</b> 1 受動文の補足説明 2 過去分詞の用法の補足説明	
<b>Lektion 11</b> .....	42
<b>Teil 1</b> 1 形容詞 2 現在分詞	
<b>Teil 2</b> 1 形容詞の補足説明 2 分詞の補足説明	
<b>Lektion 12</b> .....	46
<b>Teil 1</b> 1 形容詞の後の名詞の省略 2 形容詞の名詞化 3 形容詞・副詞の比較級・最上級	
<b>Teil 2</b> 1 形容詞の名詞化の補足説明 2 形容詞・副詞の比較級・最上級の補足説明	
<b>Lektion 13</b> .....	50
<b>Teil 1</b> 1 指示代名詞 2 代名詞 dieser, einer, meiner など	
<b>Teil 2</b> 1 指示代名詞の補足説明 2 代名詞 welcher 3 冠詞（類）の重複用法 4 数詞	
<b>Lektion 14</b> .....	54
<b>Teil 1</b> 1 関係代名詞 der 2 疑問詞	
<b>Teil 2</b> 1 関係代名詞 der の補足説明 2 疑問詞の補足説明 3 疑問詞を用いた認容文	
<b>Lektion 15</b> .....	58
<b>Teil 1</b> 1 関係代名詞 was 2 関係代名詞 wer 3 関係副詞	
<b>Teil 2</b> 1 関係代名詞 was の補足説明 2 関係副詞の補足説明 3 感嘆文	
<b>Lektion 16</b> .....	62
<b>Teil 1</b> 1 接続法とその形 2 接続法の用法	
<b>Teil 2</b> 1 接続法の形の補足説明 2 接続法の用法の補足説明	
主要不規則動詞変化表 .....	66

ドイツ語圏略地図 (  はドイツ語使用地域)



## Das Alphabet



A	a	[a:]	アー	Q	q	[ku:]	クー
B	b	[be:]	ベー	R	r	[ɛr]	エル
C	c	[tse:]	ツェー	S	s	[es]	エス
D	d	[de:]	デー	T	t	[te:]	テー
E	e	[e:]	エー	U	u	[u:]	ウー
F	f	[ɛf]	エフ	V	v	[faʊ]	ファオ
G	g	[ge:]	ゲー	W	w	[ve:]	ヴェー
H	h	[ha:]	ハー	X	x	[iks]	イクス
I	i	[i:]	イー	Y	y	[ýpsilon]	ユブシロン
J	j	[jɔt]	ヨット	Z	z	[tset]	ツェット
K	k	[ka:]	カー	Ä	ä	[ɛ:]	エー
L	l	[ɛl]	エル	Ö	ö	[ø:]	エー
M	m	[ɛm]	エム	Ü	ü	[y:]	ユー
N	n	[ɛn]	エン				
O	o	[o:]	オー				
P	p	[pe:]	ペー	ß	ß	[es-tsét]	エス・ツェット

\* Äは「アー・ウムラウト」、Öは「オー・ウムラウト」、Üは「ウー・ウムラウト」という。ウムラウトとは「変音」という意味である。



### Übung 次の略語を発音しよう。

1. EU
2. DEU
3. AUT
4. LIE
5. LUX
6. CHE

# 発音とアクセント

## 一般原則

1. 発音はほぼローマ字読みである。
2. 外来語などを除き、最初の母音 (a, ä, i, u, ü, e, o, ö) にアクセントがある。アクセントのある母音は長母音となることがある (アクセントがない母音の多くは短母音である)。
3. アクセントのある母音が長母音となるのは、1 個の子音字 (a, ä, i, u, ü, e, o, ö 以外) が続くときである。
4. アクセントのある母音が短母音となるのは、2 個以上の子音字が続くときである。

## 1 単母音

1-04	<b>a</b>	[a:]	アー	Tal	谷	Plan	計画
		[a]	ア	kalt	寒い	Kamm	櫛
<b>e</b>		[e:]	エー	Gen	遺伝子 ( <i>gene</i> )	Asket	禁欲主義者 ( <i>ascetic</i> )
		[ɛ]	エ	Bett	ベッド	nett	親切な
<b>i</b>		[ɪ]	イー	Ende	終わり	Dame	ご婦人
		[i:]	イー	Bibel	聖書	Appetit	食欲 ( <i>appetite</i> )
<b>o</b>		[ɔ:]	オー	grimm	怒り狂った	Tinte	インク
		[o:]	オー	Ton	音	rot	赤い
<b>u</b>		[ʊ]	ウ	offen	開いている	oft	しばしば ( <i>often</i> )
		[u:]	ウー	gut	良い	Tube	チューブ
		[ʊ]	ウ	Kunst	芸術	Pumpe	ポンプ

※ 名詞は、代名詞を除き、大文字で始まる。  
 ※ 外来語では、アクセントの位置に注意しよう。

## 2 変母音 (ウムラウト)

1-05	<b>ä</b>	[ɛ:]	エー	Träne	涙	Pläne	Plan の複数形
		[ɛ]	エ	Kälte	寒さ	Kämme	Kamm の複数形
<b>ö</b>		[ø:]	エー	Töne	Ton の複数形	Röte	赤さ
		[œ]	エ	öffnen	開ける	Köln	(都市名)
<b>ü</b>		[y:]	ユー	Güte	善意	üben	練習する
		[ʏ]	ユ	Künste	Kunst の複数形	Hütte	小屋

※ ウムラウトが表記できないとき、ä は ae と、ö は oe と、ü は ue と記す。

## 3 長母音

1-06	<b>h</b> (長母音を示す)	Zahl	数	wohnen	住む	
	<b>aa, ee, oo</b> (重母音)	Tee	お茶	Zoo	動物園	
	<b>ie</b>	[i:]	イー	nie	決してない ( <i>never</i> )	telefonieren

※ -ieren で終わる動詞は外来語であり、常に -ie- にアクセントがある。  
 ※ アクセントのない ie は [iə] (イエ) と発音する。Familie (*family*) Historie (*history*)

## 4 二重母音 (複母音)

1-07	<b>ai</b>	[ai]	アイ	Main	(河川名)	Kai	波止場
	<b>ei</b>	[ai]	アイ	weit	広い	allein*	一人で ( <i>alone</i> )
	<b>ay, ey</b>	[ai]	アイ	Haydn	(人名)	Loreley	(地名)
	<b>au</b>	[aʊ]	アオ	Baum	木	laut	大声で ( <i>loud</i> )
	<b>äu</b>	[ɔy]	オイ	Bäume	Baum の複数形	läuten	(鐘が) 鳴る
	<b>eu</b>	[ɔy]	オイ	Europa	ヨーロッパ	Leute	人々

※ 合成語のアクセントは後ろにあることがある。allein (*alone*) ← all (*all*) + ein (*one*)

## 5 子音

1-08	<b>b</b>	[b]	ブ	brennen	燃える	Bühne	舞台
		[p]	プ (語末など)	Dieb	泥棒	ob	~かどうか
<b>ch</b>		[x]	ホ a, o, u, au の後	Nacht	夜	hoch	高い
		[ç]	ヒ (上以外)	Buch	本	auch	~もまた ( <i>also</i> )
<b>chs</b>		[ks]	クス	nicht	~でない ( <i>not</i> )	echt	本物の
		[d]	ド	Fuchs	狐	Ochse	雄牛 ( <i>ox</i> )
<b>d</b>		[t]	ト (語末など)	Dach	屋根	Dachs	アナグマ
		[t]	ト	und	そして ( <i>and</i> )	Mädchen	少女
<b>dt</b>		[t]	ト	Humboldt	(人名)	Brandt	(人名)
		[f, v]	フ	Heft	ノート	Volk	民族
<b>ph</b>		[f]	フ (外来語)	Phantom	幻	Alphabet	アルファベット
		[g]	グ	Glas	ガラス	Gabe	才能
<b>ig</b>		[k]	ク (語末など)	Freitag	金曜日	freitags	金曜日に
		[ɪç]	イッヒ (語末)	König	国王	nötig	必要な
<b>j</b>		[j]	イエ	ja	はい ( <i>yes</i> )	Japan	日本
		[k]	ク	Knabe	少年	antik	古代の
<b>ck</b>		[k]	ク	Jacke	上着	Pickel	ピッケル
		[ŋ]	ング	jung	若い	Übung	練習
<b>ng</b>		[pf]	プ	Kampf	戦い	Apfel	リンゴ
		[kv]	クヴ	Qual	苦痛	Qualität	質
<b>qu</b>		[r]	ル	richtig	正しい	Bern	(都市名)
		[ʁ]	ア (長母音の後で、後に母音が来ない -r)	Bär	熊	nur	だけ ( <i>only</i> )
<b>r</b>		[ʁ]	ア (1 音節の語で、-er で終わるときの -r)	er	彼は ( <i>he</i> )	wer	誰が ( <i>who</i> )
		[e]	アー (2 音節以上の語の終わりで、アクセントを持たない -er)	aber	しかし ( <i>but</i> )	oder	または ( <i>or</i> )
<b>er</b>				immer	いつも ( <i>always</i> )	Ostern	復活祭 ( <i>Easter</i> )
		[z]	ズ (母音の前)	singen	歌う ( <i>sing</i> )	also	それゆえ
<b>s</b>		[ʃ]	シュ	Englisch	英語	Schuh	靴
		[ʃp]	シュプ (語頭)	Sprache	言葉	sparen	貯金する
<b>sp</b>		[ft]	シュト (語頭)	Stunde	時間 ( <i>hour</i> )	Stein	石
		[s]	ス	essen	食べる	fleißig	勤勉な
<b>st</b>							
<b>ss, ß</b>							

※ ß は、表記できないときは、ss と記す。辞書をひくときも ss としてひく。  
 ※ 短母音の後では ss を、それ以外では ß を使う。

<b>th</b>	[t]	ト (外来語)	Thema	主題 ( <i>theme</i> )	Theorie	理論 ( <i>theory</i> )
<b>ti</b>	[tsj]	ツイ (外来語)	Lektion	課 ( <i>lesson</i> )	Nation	国民 ( <i>nation</i> )
<b>ts, ds</b>	[ts]	ツ	nachts	夜に	abends	晩に
<b>tz</b>	[ts]	ツ	Satz	文	Blitz	稲妻
<b>tsch</b>	[tʃ]	チュ	deutsch	ドイツの	tschechisch	チェコの
<b>v</b>	[v]	ヴ (外来語)	Klavier	ピアノ	Vokabular	語彙
<b>w</b>	[v]	ヴ	Werk	作業 ( <i>work</i> )	Wagen	車
<b>x</b>	[ks]	クス	Reflex	反射	Axt	斧
<b>z, zz</b>	[ts]	ツ	bezeichnen*	標示する	Skizze	スケッチ

\* 接頭辞 be-, emp-, ent-, er-, ge-, ver-, zer- などにはアクセントがない。(⇒ S.18 ② ①\*)



### Übung 1 次の基数を発音しよう。

1-09

0	null	10	zehn	20	zwanzig	100	[ein] hundert
1	eins	11	elf	21	einundzwanzig	101	hundertereins
2	zwei	12	zwölf	22	zweiundzwanzig	111	hundertelf
3	drei	13	dreizehn	30	dreißig	200	zweihundert
4	vier	14	vierzehn	40	vierzig	476	vierhundertsechundsiebzig
5	fünf	15	fünfzehn	50	fünfzig	1.000	[ein]tausend
6	sechs	16	sechzehn	60	sechzig	1.918	[ein]tausendneunhundertachtzehn
7	sieben	17	siebzehn	70	siebzig	2.000	zweitausend
8	acht	18	achtzehn	80	achtzig	4.567	viertausendfünfhundertsiebenundsechzig
9	neun	19	neunzehn	90	neunzig	10.000	zehntausend
						100.000	[ein]hunderttausend
						1.000.000	eine Million

\* 基数の発音では区切りに注意しよう。たとえば、einundzwanzig は (ein-und-zwanzig) と分かれる。



### Übung 2 次の西暦を発音しよう。

1-10

962 年	neunhundertzweiundsechzig
1077 年	[ein]tausendsiebenundsiebzig
1517 年	fünfezhnhundertsiebzehn
1648 年	sechzehnhundertachtundvierzig
1918 年	neunzehnhundertachtzehn
1989 年	neunzehnhundertneunundachtzig
2024 年	zweitausendvierundzwanzig

\* 西暦の読み方  
 ・1099年までと2000年からは基数と同様に読む。  
 ・1100年から1999年までは、(2桁-hundred-2桁) と読む。



### Übung 3 次の季節・月・曜日を発音しよう。

1-11

春	Frühling	1 月	Januar	7 月	Juli	月曜日	Montag
夏	Sommer	2 月	Februar	8 月	August	火曜日	Dienstag
秋	Herbst	3 月	März	9 月	September	水曜日	Mittwoch
冬	Winter	4 月	April	10 月	Oktober	木曜日	Donnerstag
		5 月	Mai	11 月	November	金曜日	Freitag
		6 月	Juni	12 月	Dezember	土曜日	Samstag (Sonnabend)
						日曜日	Sonntag

Makoto Nakahashi

# Syntax verstehen

— deutsche Grammatik für Anfänger —

構造がわかるドイツ語文法 三訂版

— 基礎 + 発展の2段階式 —

ASAHI Verlag

### 1 動詞（語幹と語尾）

ドイツ語の動詞は、英語の原形にあたる**語幹**と、英語の3人称単数の-sに見られた**語尾**からなる。語尾は3人称単数以外にも見られ、主語の人称に応じて変化する（動詞の**人称変化**）。現在時称における人称変化は、語幹 sing (*sing*) を例にとると、次の通りである。

1 人称	ich ( <i>I</i> )	singe	wir ( <i>we</i> )	singen
2 人称（親称）	du ( <i>you</i> )	singst	ihr ( <i>you</i> )	singt
3 人称	er ( <i>he</i> )	singt	sie ( <i>they</i> )	singen
	sie ( <i>she</i> )			
	es ( <i>it</i> )			
2 人称（敬称）	Sie ( <i>you</i> )	singen	Sie ( <i>you</i> )	singen

※ 2 人称には、家族や友人などに使われる親称と、それ以外に使われる敬称がある。敬称 Sie は 3 人称複数 sie の転用であり、これと同一の変化をするため、以下、省略する。  
※ 以下、3 人称単数は er で代表する。

※ 以上の -e, -st, -t, -en, -t, -en を**人称語尾**、主語がついて人称変化した動詞を**定動詞**、主語がつかない人称変化以前の動詞を**不定動詞**という（不定動詞には -en の語尾がつく）。動詞を辞書でひくときは不定動詞でひこう（上では singen）。逆に、不定動詞を定動詞にするときは、不定動詞語尾をとって、人称語尾をつけよう。

### 2 不定詞（句）とドイツ語の文の構成

① 不定詞は他の要素を前に伴って**不定詞句**となる。一般に、不定詞との結びつきが強いものほど、不定詞の近くに位置する（おおよそ日本語の語順と一致する）。

oft laut **singen** 何度も大声で歌う（こと）

② 不定詞（句）は**主語**を伴うと文になる。そのさい、不定詞は**定動詞**に変化し、平叙文では、文の要素の**第 2 位**に移動する（**定動詞第 2 位**）。定動詞以外の要素は、強調などを除き、移動しない。

Er **singt** oft laut. 彼は何度も大声で歌う。  
Oft **singt** er laut. 何度も大声で歌う。  
Laut **singt** er oft. 大声で何度も歌う。  
※ 文頭は大文字にする。

③ 疑問詞を含まない疑問文では、定動詞は第 1 位に位置する。

**Singt** er oft laut? (*Does he often sing loud?*)  
Ja, er **singt** oft laut. (*Yes, he often sings loud.*)  
Nein, er **singt** nicht oft laut. (*No, he does not sing loud often.*)  
**Singt** er nicht oft laut? (*Doesn't he sing loud often?*)  
Doch, er **singt** oft laut. (*Yes, he often sings loud.*)  
※ doch は否定の否定を意味する。  
Nein, er **singt** nicht oft laut. (*No, he does not sing loud often.*)

④ 疑問詞を含む疑問文では、疑問詞が第 1 位に、定動詞は第 2 位に位置する。

Wann **singt** er laut? (*When does he sing loud?*)  
Was **singt** er laut? (*What does he sing loud?*)  
Wo **singt** er laut? (*Where does he sing loud?*)  
Warum **singt** er laut? (*Why does he sing loud?*)  
Wer **singt** laut? (*Who sings loud?*)  
Wie **singt** er? (*How does he sing?*)  
Wie oft **singt** er laut? (*How often does he sing loud?*)  
※ wie oft で 1 つの要素である。

### 3 重要な現在人称変化（不規則変化動詞） (⇒ S.4 1)

sein ( <i>be</i> )		haben ( <i>have</i> )		werden ( <i>become</i> )		wissen ( <i>know</i> )	
ich <b>bin</b>	wir <b>sind</b>	ich habe	wir haben	ich werde	wir werden	ich <b>weiß</b>	wir wissen
du <b>bist</b>	ihr <b>seid</b>	du <b>hast</b>	ihr habt	du <b>wirst</b>	ihr werdet	du <b>weißt</b>	ihr wisst
er <b>ist</b>	sie <b>sind</b>	er <b>hat</b>	sie haben	er <b>wird</b>	sie werden	er <b>weiß</b>	sie wissen

### Übung 1 ドイツ語の文を完成させよう。

- 私は独文学を専攻している (studieren)。 \_\_\_\_\_ Germanistik.
- 彼は晩にビールを飲みます (trinken)。 \_\_\_\_\_ abends Bier.
- 君は勤勉にドイツ語を学んでいる (lernen)。 \_\_\_\_\_ fleißig Deutsch.  
※ ドイツ語では、形容詞の多くがそのまま副詞としても使われる。(⇒ S.42 1④)
- 彼は論理的に (logisch) 考えます (denken) か。 \_\_\_\_\_ logisch?
- 私はハンブルクをよく (gut) 知っている (kennen)。 \_\_\_\_\_ Hamburg gut.
- 彼らは何を知っています (wissen) か。 \_\_\_\_\_ ?
- 知は力 (Macht) なり。 (*Francis Bacon*) Wissen \_\_\_\_\_ Macht.  
※ Wissen のように不定詞と同形の名詞もある。名詞は大文字で始まる。(⇒ S.ii 1※)
- 君らはとても (sehr) 勤勉ですか。 \_\_\_\_\_ sehr fleißig?
- 彼は病気 (krank) に決してならない (nie)。 \_\_\_\_\_ nie krank.
- 君はおなかですいている (Hunger haben) のか。 \_\_\_\_\_ Hunger?

### Übung 2 和訳しよう。

- Schönheit vergeht, Tugend besteht. \* 諺
- Eigenlob stinkt, Freundeslob hinkt, Feindeslob klingt. \* 諺  
※ Eigenlob ← (eigen + Lob) Freundeslob ← (Freund + Lob) Feindeslob ← (Feind + Lob)  
辞書にない単語を見たときは、合成語の可能性を考えよう。
- Besitz heißt Verantwortung. (*Albert Schweitzer*)
- Würde bringt Bürde. \* 諺  
※ 主語候補が複数あるときは、原則として、先行するものが主語である。
- Oft weckt Not Talent. (*Ovid*)
- Glück macht Mut. (*Goethe: Götz von Berlichingen*)
- Lou und Paul traut Friedrich, aber sie trauen Friedrich nicht.  
※ aber (*but*) や und (*and*)、oder (*or*) は文の要素に入らない。(⇒ S.18 1①)
- Ihr seht und sagt: Warum? Aber ich träume und sage: Warum nicht? (*Bernard Shaw*)
- Ich denke, also bin ich. (*Descartes*)  
※ 繫辞 (イコール) 以外の sein の意味は、多くの場合、存在 (いる・ある) である。
- Wo sind wir? Was wünschen wir? Was machen wir? Warum lernen wir?

★ 1 人称とは「私 (達)」、2 人称とは「あなた・君 (達)」、3 人称とはこれら以外である。  
★ ドイツ語の動詞の現在形は、「～している」とも、「～するだろう」(可能性の高い未来)とも訳せる。  
★ 主語・動詞の組みあわせを含まない 2 語以上のまとまりが句 (不定詞句など) である。  
★ ドイツ語の文では先ず定動詞を探そう。

### 1 現在人称変化の補足説明 (⇒ S.2 1, S.3 3)

1-17

	tun <sup>*1</sup> (do)	wandern <sup>*1,2</sup> (wander)	lächeln <sup>*1,2</sup> (smile)	reisen <sup>*</sup> (travel)	öffnen <sup>*</sup> (open)	antworten <sup>*</sup> (answer)	
ich	-e	tue	wand[er]e <sup>*3</sup>	lächle <sup>*4</sup>	reise	öffne	antworte
du	-st	tust	wanderst	lächelst	reist <sup>*5</sup>	öffnest <sup>*6</sup>	antwortest <sup>*6</sup>
er	-t	tut	wandert	lächelt	reist	öffnet <sup>*6</sup>	antwortet <sup>*6</sup>
wir	-(e)n	tun <sup>*1</sup>	wandern <sup>*1,2</sup>	lächeln <sup>*1,2</sup>	reisen	öffnen	antworten
ihr	-t	tut	wandert	lächelt	reist	öffnet <sup>*6</sup>	antwortet <sup>*6</sup>
sie	-(e)n	tun <sup>*1</sup>	wandern <sup>*1,2</sup>	lächeln <sup>*1,2</sup>	reisen	öffnen	antworten

- ※ 1 不定詞のなかには -n の語尾を持つものもある。このような動詞では、wir, sie の人称語尾も -n となる。
- ※ 2 アクセントを欠く母音の連続 (-ere-, -ele- など) は避けられる。(× wandern)
- ※ 3 -er で終わる語幹に人称語尾 -e がつくと、幹母音 (語幹の母音) の -e- が落ちることがある (落ちない方が多い)。<sup>\*2</sup>
- ※ 4 -el で終わる語幹に人称語尾 -e がつくと、幹母音の -e- が落ちる。<sup>\*2</sup> (× lächle)
- ※ 5 -s, -ss, -ß, -tsch, -tz, -z, -x で終わる語幹につく人称語尾 -st は -t となる。
- ※ 6 -d, -t, -chn, -fn, -tm で終わる語幹につく人称語尾 -st は -est と、-t は -et となる。

### 2 不定詞 (句) の名詞的用法 (⇒ S.2 2 ①)

1-18

① 不定詞 (句) は文中で名詞 (句) として、つまり、主語や補語、目的語として働く。文中では、不定詞と定動詞を混同しないようにしよう。

**Leben heißt kämpfen.** ← 不定詞: leben, kämpfen  
(To live is to fight.) (Seneca)

**Mensch sein heißt verantwortlich sein.** ← 不定詞句: Mensch sein, verantwortlich sein  
(To be a man is, precisely, to be responsible.) (Saint-Exupéry)

② 完全に名詞として理解された不定詞は大文字で始まる。(⇒ S.ii 1 ※)

**Reden ist Silber, Schweigen ist Gold.**  
(Speech is silver, silence is gold.) \*諺

### Übung 1 ドイツ語の文を完成させよう。

1-19

1. 私はよく 1 人で歩き回る。 \_\_\_\_\_ oft allein.
2. 彼女はとても愛想よく (freundlich) 笑う。 \_\_\_\_\_ sehr freundlich.
3. 私は慌て (schnell handeln) ない。 \_\_\_\_\_ nicht schnell.
4. 君は踊りが好きですね。  
(好んで (gern) 踊りますね (tanzen)。) \_\_\_\_\_ gern.
5. 彼女は計算が遅い (langsam rechnen)。 \_\_\_\_\_ langsam.
6. 彼は図画が好きだ (描く (zeichnen))。 \_\_\_\_\_ gern.
7. 君はここで何をしている (tun) のか。 \_\_\_\_\_ du hier?
8. 君の名前はなんと (wie) 言います (heißen) か。 \_\_\_\_\_ ?
9. いつ彼は勤勉に働く (arbeiten) のか。 \_\_\_\_\_ fleißig?
10. 君はなぜそれほど入浴するのですか (baden)。 \_\_\_\_\_ so oft?

### Übung 2 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-20

„Heißt du Heidi oder Adelheid?“, fragt Klara.  
„Ich heiße Heidi.“, antwortet Heidi.

- a. 定動詞 fragt の不定詞は \_\_\_\_\_ である。定動詞 antwortet の人称語尾は、発音への配慮から、-t ではなく -et であり、その不定詞は antworteen ではなく、\_\_\_\_\_ である。
- b. 不定詞 \_\_\_\_\_ の定動詞である heißt は、語幹 heiß- と語尾 -t からなる。この語尾を伴うときの主語は、通常、( ) 人称単数の名詞か ( ) 人称複数の \_\_\_\_\_ である。しかし、この heißt の主語は du である。この人称語尾が -st ではなく、-t であるのは、発音への配慮のためである。このように、定動詞から不定詞を考えるさいには、-e- の挿入や、-e-, -s- の脱落の可能性も考えよう。

訳

### Übung 3 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-21

Flöte spielen macht Spaß.

- a. この文では、一見、spielen が定動詞であると思われるかもしれない。しかし、そのときの主語である 2 人称敬称 Sie や、( ) 人称 ( ) 数、( ) 人称 ( ) 数の名詞が文中に見られない。それゆえ、spielen は定動詞ではなく、不定詞であると考えられる。この文の定動詞は、人称変化が確実な \_\_\_\_\_ である。
- b. Spaß を辞書でひくと、〔…… macht Spaß〕で「……は楽しい(……は楽しみを作りだす)」という用法が見られる。それゆえ、Spaß は macht の ( ) 語である。
- c. (Flöte spielen) は、( ) 詞の前にあることから、1 つの不定詞句として扱う。不定詞 (句) は文中で主語・目的語・補語のいずれか、ここでは、( ) 語にあたる働きをしている。また、不定詞は、動詞としての性質も持つ。この spielen が、Flöte という ( ) 語を持つのは、spielen が ( ) 動詞だからである。

訳

### Übung 4 和訳しよう。

1-22

1. Dank altert schnell. \*諺
2. Ich zweifle, also denke ich. (Werner Mitsch)
3. Du grüßt Wolfgang freundlich.
4. Wissen ist Macht. Aber Unwissenheit bedeutet noch lange nicht Machtlosigkeit.  
(Enrico Fermi)  
※ noch lange 「まだ」  
※ Machtlosigkeit 「無力」
5. Not lehrt beten. \*諺
6. Kunst ist Weglassen. (Leonard Frank)
7. Denken heißt selber denken. (Lichtenberg)  
※ selber 「自分で」
8. Liebe analysieren heißt Liebe zerstören. (Inayat Khan)
9. Vater werden ist nicht schwer, Vater sein dagegen sehr. (Wilhelm Busch)
10. Aufrichtig sein und ehrlich bringt Gefahr. (Shakespeare: Othello)

### 1 名詞の性と定冠詞

英語の定冠詞 *the* は、ドイツ語の名詞の単数 (sg.) では、**der, das, die** と3つに分かれる。これは、ドイツ語の単数名詞が男性・中性・女性のいずれかの性を持ち、それに応じて定冠詞が3つに分かれるためである (名詞は *der, das, die* と一緒に覚えよう)。例えば次のようになる。

男性名詞 (m.)	<b>der</b> Vater ( <i>the father</i> )	<b>der</b> Löffel ( <i>the spoon</i> )
中性名詞 (n.)	<b>das</b> Kind ( <i>the child</i> )	<b>das</b> Messer ( <i>the knife</i> )
女性名詞 (f.)	<b>die</b> Mutter ( <i>the mother</i> )	<b>die</b> Gabel ( <i>the fork</i> )

※ 以下、定冠詞は *der* で代表する。  
 ※ *der* は *er* に、*das* は *es* に、*die* は *sie* に対応する。

※ 性は文法上のものである。また、合成語の名詞の性は最後の名詞に従う。

**das** Oktoberfest 10月祭 ← *der* Oktober + **das** Fest (*festival*)

※ 複数名詞 (pl.) では性は問題とされず、定冠詞はすべて *die* となる。複数名詞の形については、そのつど辞書を参照しよう。  
 (⇒ Fußnote)

### 2 定冠詞と名詞の格変化

文中における名詞の役割を決定するものを**格**という (英語の *he, him* など)。ドイツ語名詞には格が4つある。1格は**主語** (「～は」「～が」) や**補語** (「～である」)、2格は**修飾** (「～の」)、3格は**間接目的語** (「～に」)、4格は**直接目的語** (「～を」) として働く。動詞・形容詞などが慣用表現として特定の格を用いるときもある (辞書参照)。格は定冠詞 (と名詞語尾) により示される。定冠詞と名詞の格の変化 (**格変化**) は次の通りである。

格	m.	n.	f.	pl.	pl.
1	<b>der</b> Onkel ( <i>uncle</i> )	<b>das</b> Kind	<b>die</b> Tante ( <i>aunt</i> )	<b>die</b> Kinder	<b>die</b> Tanten
2	<b>des</b> Onkels* <sup>1</sup>	<b>des</b> Kind[e]s* <sup>1</sup>	<b>der</b> Tante	<b>der</b> Kinder	<b>der</b> Tanten
3	<b>dem</b> Onkel* <sup>2</sup>	<b>dem</b> Kind[e]* <sup>2</sup>	<b>der</b> Tante	<b>den</b> Kindern* <sup>3</sup>	<b>den</b> Tanten* <sup>3</sup>
4	<b>den</b> Onkel	<b>das</b> Kind	<b>die</b> Tante	<b>die</b> Kinder	<b>die</b> Tanten

※<sup>1</sup> 男性名詞・中性名詞の2格には *-[e]s* の語尾がつく。*-s* か *-es* に関しては、多くはどちらでもよいが、*-s, -ss, -ß, -x, -sch, -t, -z* で終わるときは *-es* が、アクセントのない *-em, -en, -el, -er, -ling* で終わるときは *-s* がつく (厳密には辞書を参照しよう)。(⇒ Fußnote)

※<sup>2</sup> 男性名詞・中性名詞の単数3格は、単数2格から *-s* が落ちたものである。*-s* と一緒に *-e* も落ちることが多い。

※<sup>3</sup> 複数名詞3格には *-n* の語尾がつく。ただし、*-n* は重ねない。(× *Tantenn*)

**Der Geist bewegt die Materie.**

(*The mind moves the matter.*) (Vergil: *Aeneis*)

**Die Jugend glaubt dem Alter nicht.**

(*Young people don't believe old people.*) \* 諺

**Die Augen sind der Spiegel der Seele.\***

(*The eyes are the mirror of the soul.*) \* 諺

※ 2格の名詞は、通常、前の名詞を修飾する。後の名詞を修飾することもあるが、そのときは、修飾される名詞の冠詞が落ちる。(修飾される名詞の格は、文中での役割から判断すること。)

Die Augen sind **der Spiegel der Seele.**

→ Die Augen sind **der Seele Spiegel.**

★ 名詞を辞書でひくときの注意：名詞は、辞書で [der Onkel -s/-], [das Kind -[e]s/-er], [die Tante -/n], [der Geist -[e]s/-er], [die Materie -/n], [die Jugend -/ ], [das Alter -s/-], [das Auge -s/-n], [der Spiegel -s/-], [die Seele -/n], [der Mann -[e]s/Männer], [das Mädchen -s/-], [die Frau -/en], [die Katze -/n], [die Geduld -/ ], [die Grundlage -/n], [die Weisheit -/en] などと記されている。見だしは単数1格の形であり、最初に名詞の性が示されている。スラッシュの前は単数2格語尾を、後は複数形語尾ないし複数形そのものを示す。

### 3 定冠詞類

*dieser (this), jener (that), solcher (such), aller (all), jeder (every), mancher (quite a few), welcher (which)* を**定冠詞類**という。定冠詞類は定冠詞に似た格変化をする。

格	m.	n.	f.	pl.
1	<b>dieser</b> Mann ( <i>man</i> )	<b>dieses</b> Mädchen	<b>diese</b> Frau ( <i>woman</i> )	<b>diese</b> Männer
2	<b>dieses</b> Mann[e]s	<b>dieses</b> Mädchens	<b>dieser</b> Frau	<b>dieser</b> Männer
3	<b>diesem</b> Mann[e]	<b>diesem</b> Mädchen	<b>dieser</b> Frau	<b>diesen</b> Männern
4	<b>diesen</b> Mann	<b>dieses</b> Mädchen	<b>diese</b> Frau	<b>diese</b> Männer

※ 以下、定冠詞類は *dieser* で代表する。

Nachts sind **alle Katzen** grau.

(*All cats are grey in the dark.*) \* 諺

Geduld ist die Grundlage **jeder Weisheit.**

(*Patience is the foundation of every wisdom.*) (Sokrates)

### Übung 1 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

Der Frau schmeckt dieser Kuchen gut. Er ist sehr populär.

- ドイツ語の文では先ず動詞を探そう。動詞は、平叙文では、文の要素の第( )位に位置する(単語としての順序ではない)。第1文の動詞は\_\_\_\_\_である。
- 動詞が確定したら、名詞の格を考えよう。最初の名詞である *Frau* は1格ではない。*Frau* が( )性名詞であり、*der* がつくときは( )格か( )格であるからである。ここでは後者であり、( )と訳する。この文の主語は、( )性名詞であるがゆえに、1格以外の可能性を持たない\_\_\_\_\_である。このように、名詞を見たときは、その格が何か、文中での働きが何か、どのように訳すかを考えよう。
- Er は\_\_\_\_\_をうけている。ドイツ語の名詞の性は文法上のものであることに注意しよう。

訳

### Übung 2 和訳しよう。

- Kurz ist der Schmerz, und ewig ist die Freude. (Schiller: *Die Jungfrau von Orleans*)
  - Der Zweck heiligt die Mittel. (Ovid)
  - Übung macht den Meister. \* 諺
  - Die Tiger sind den Schmetterlingen nicht lästig.
  - Der Jugend fehlt die Erfahrung und dem Alter die Jugend. \* 諺
  - Das Wort gleicht der Biene: Es hat Honig und Stachel. (Talmud)
  - Nur schwer kommt die Gelegenheit, leicht entgeht sie. (Publius Syrus)
  - Jeder Vergleich ist das Ende des Glücks und der Anfang der Unzufriedenheit. (Kierkegaard)
  - Geld ist das Maß aller Dinge. \* 諺
  - Armut ist aller Künste Stiefmutter. \* 諺
- ★ 名詞を見たときには、まず、主語 (「～は」「～が」)、補語 (「～である」)、目的語 (「～に」「～を」)、修飾 (「～の」) のいずれであるかを考えよう。
- ★ 辞書で、人の2・3・4格は *j, j', j'* や *js., jm., jn.* などと、物の2・3・4格は *et<sup>2</sup>, et<sup>3</sup>, et<sup>4</sup>* などと記されている。

## 1 名詞の複数形

1-28

名詞の複数形は、おおよそ以下のようである。規則的なものは暗記しておこう。

## ① 無語尾式 (単複同形)

der Karpfen	( <i>carp</i> )	→ die Karpfen
der Onkel	( <i>uncle</i> )	→ die Onkel :
		-el, -en, -er で終わる男性名詞と中性名詞は無語尾式。
der Vogel	( <i>bird</i> )	→ die Vögel : 幹母音がウムラウトするものもある。
das Mädchen	( <i>girl</i> )	→ die Mädchen : -chen (n.) は無語尾式。
das Vöglein	( <i>bird</i> )	→ die Vöglein : -lein (n.) は無語尾式。

## ② E 式

der Tag	( <i>day</i> )	→ die Tage
der Band	巻	→ die Bände : 幹母音がウムラウトするものもある。
der Zwilling	( <i>twin</i> )	→ die Zwillinge : -ling (m.) → -linge
die Kenntnis	( <i>knowledge</i> )	→ die Kenntnisse : -nis → -nisse

## ③ ER 式 : 幹母音の a, o, u, au はすべてウムラウトする。

das Kind	( <i>child</i> )	→ die Kinder
der Mann	( <i>man</i> )	→ die Männer
das Band	帯	→ die Bänder

## ④ (E) N 式 : 幹母音がウムラウトすることはない。

die Funktion	( <i>function</i> )	→ die Funktionen : -ion (f.) → -ionen
die Schönheit	( <i>beauty</i> ) *	→ die Schönheiten : -heit (f.) → -heiten
die Ewigkeit	( <i>eternity</i> ) *	→ die Ewigkeiten : -keit (f.) → -keiten
die Freundschaft	( <i>friendship</i> )	→ die Freundschaften : -schaft (f.) → -schaften
die Bildung	( <i>education</i> )	→ die Bildungen : -ung (f.) → -ungen
die Studentin	女子学生	→ die Studentinnen : -in (f.) → -innen
das Auge	( <i>eye</i> )	→ die Augen : e は重ねない。(× Augeen)
die Schwester	( <i>sister</i> )	→ die Schwestern (⇒ S.4 1 ※ 2)
die Gabel	( <i>fork</i> )	→ die Gabeln (⇒ S.4 1 ※ 2)

\* -heit, -keit で終わる名詞は抽象名詞だが、複数形では具体的なものを表わす。  
Schönheit「美」⇔ Schönheiten「美人」

## ⑤ S 式 : 幹母音がウムラウトすることはない。

das Auto	( <i>automobile</i> )	→ die Autos
die Band	楽団	→ die Bands
die AG	株式会社	→ die AGs

\* -s で終わる複数名詞には、3 格でも語尾 -n がつくことはない。(⇒ S.6 2 ※ 3)  
sg. das Auto, des Autos, dem Auto, das Auto  
pl. die Autos, der Autos, den Autos (× Autosn), die Autos

## 2 不定詞の性

1-29

大文字で始まる不定詞 (⇒ S.4 2 ②) は、中性名詞 (単数) として扱う。

**Dem Wachsen** des Geldes folgt die Sorge.

(*Worry follows growing wealth.*) (Horaz)



## Übung 1 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-30

Den Wagen dieses Konzerns fehlt die Popularität. Aber ich finde diesen Wagen toll.

- a. 男性名詞 Wagen は単複同形であり、-n で終わるため、( ) 数 ( ) 格以外はすべて同形である。上の 2 つの Wagen の数・格は何か。第 1 文の Den Wagen は fehlt と一緒に使われているため ( ) 格である (S.7 Übung 2-5.)。それゆえ ( ) 数である。第 2 文の diesen Wagen は finde の目的語であるため ( ) 格である (辞書参照)。この格で diesen が使われているため、diesen Wagen は ( ) 数である。
- b. 第 2 文では toll の扱いに困るかもしれない。主語・動詞以外に複数の要素があるときは、そこに 1 つの文を考えると分かりやすいことが多い (英語の第 5 文型 (SVOC) を思いだそう)。ここでは、動詞 sein を補うと、finde の後に \_\_\_\_\_ という文が潜在的に含まれることが分かる。そうすると、toll が補語であることも分かりやすい。

訳



## Übung 2 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-31

Das Fragen ist den Forschern eigentümlich. Sie haben immer manche Fragen.

- a. 第 1 文の Forschern が複数 3 格であることは、辞書をひかずとも、( ) 詞の \_\_\_\_\_ と語尾の \_\_\_\_\_ から推測できる。この格は、\_\_\_\_\_ により必要とされている (辞書参照)。
- b. 第 1 文の Fragen は Frage の複数形ではない。もし複数形であるなら、その前に来るのは Das ではなく、\_\_\_\_\_ である。Das がつき、中性名詞として扱われているのは、この Fragen が ( ) 詞だからである (辞書によっては、最初から中性名詞と記されている)。それゆえ、その和訳は、「問い」ではなく、( ) である。第 2 文の Fragen は、直前に manche があることから、( ) 数の ( ) 格か ( ) 格である。ここでは、haben の目的語であるために、後者である。以上の 2 つの Fragen に見られるように、それだけでは品詞などが分からないときは、定冠詞 (類) などに注目しよう。

訳



## Übung 3 和訳しよう。

1-32

1. Leiden sind Lehren. (*Äsop*)
2. Dieses Kind kennt schon Bänke und Banken.
3. Worte sind des Dichters Waffen. (*Goethe*)
4. Sprichwörter sind die Münze des Volkes. \* 諺
5. Die Dummheiten wechseln, und die Dummheit bleibt. (*Erich Kästner*)
6. Leben ist das Einatmen der Zukunft. (*Pierre Leroux*)
7. Alles Reden ist sinnlos. Hier fehlt das Vertrauen.
8. Alles Leben ist Problemlösen. (*Karl R. Popper*)
9. Arbeit macht das Leben süß. (*Burmann*)
10. Fressen und Saufen macht die Ärzte reich. \* 諺



### 1 不定冠詞

1-33 定冠詞のときと同様、名詞の性に応じて、**ein, ein, eine** を不定冠詞として使う。定冠詞のときと同様、格は不定冠詞（と名詞語尾）により示される。

格	m.	n.	f.
1	ein Garten ( <i>garden</i> )	ein Haus ( <i>house</i> )	eine Tür ( <i>door</i> )
2	eines Gartens	eines Hauses	einer Tür
3	einem Garten	einem Haus[e]	einer Tür
4	einen Garten	ein Haus	eine Tür

※ 以下、不定冠詞は ein で代表する。

**Ein Buch ist ein Spiegel.**

(*A book is a mirror.*) (*Lichtenberg*)

Glück ist die Folge **einer Tätigkeit.**

(*Happiness is the end of action.*) (*Aristoteles*)

### 2 不定冠詞類

1-34 所有冠詞の mein (*my*), unser (*our*), dein (*your*), euer (*your*), sein (*his, its*), ihr (*her, their*), Ihr (*your*) と否定冠詞の kein (*no*) を **不定冠詞類** という（以下、不定冠詞類は mein で代表する）。格変化は以下の通りである。なお、sein に関しては男性名詞・中性名詞のいずれをうけるか、ihr に関しては女性名詞・複数名詞のいずれをうけるかに注意しよう。また、Ihr は、3人称複数の ihr の2人称敬称への転用である（⇒ S.2 1 ※）。

格	m.	n.	f.	pl.
1	mein Mund ( <i>mouth</i> )	mein Auge ( <i>eye</i> )	meine Nase ( <i>nose</i> )	meine Augen ( <i>eyes</i> )
2	meines Mund[e]s	meines Auges	meiner Nase	meiner Augen
3	meinem Mund[e]	meinem Auge	meiner Nase	meinen Augen
4	meinen Mund	mein Auge	meine Nase	meine Augen

※ kein は不定冠詞のついた名詞や無冠詞の複数名詞などを否定する。その他の否定には nicht を使う。

Liebe kennt **keine** Grenzen. (*Love knows no limits.*) (*Bibel*)

Unkraut vergeht **nicht**. (*Weeds never die.*) \*諺

### 3 男性弱変化名詞

1-35 次のような特殊な格変化をする男性名詞を **男性弱変化名詞** という。

格	sg.	pl.	sg.	pl.
1	der Student ( <i>student</i> )	die Studenten	der Junge ( <i>boy</i> )	die Jungen
2	des Studenten	der Studenten	des Jungen	der Jungen
3	dem Studenten	den Studenten	dem Jungen	den Jungen
4	den Studenten	die Studenten	den Jungen	die Jungen

★ 男性弱変化名詞は辞書に、[der Student -en/-en], [der Junge -n/-n] などと記されている。単数2格の語尾が -[e]s ではなく、-[e]n であることに注意しよう。（⇒ S.6 Fußnote）

### 4 格の働き（2・3・4格）の補足説明（⇒ S.6 2）

1-36 ① 2格には補語となる用法もある。

Ich bin **Ihrer Meinung.**

(*I am of your opinion.*)

② 3格には、基準・剥奪・（身体の一部の）所有を意味する用法もある。

Die Zeit vergeht **den Kindern** schnell.

(*Time passes quickly for the children.*)

Die Sorge raubt **dem Studenten** den Schlaf.

学生は心配で眠れない（心配が学生から睡眠を奪っている）。

Der Ritter küsst **dem König** die Hand.

(*The knight kisses the king's hand.*)

③ 2・4格には副詞としての用法もある。

**Meines Erachtens** ist die Ehrfurcht die Grundlage aller Tugenden.

(*In my opinion, piety is the foundation of all virtues.*) (*Cicero*)

Die Sonne ist **jeden Tag** neu.

(*The sun is new each day.*) (*Heraklit*)

### Übung 1 次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-37 Das Schicksal geht seinen Weg. (*Seneca*)

- Das Schicksal は( )格である。( )語になるものが他にないからである。
- seinen Weg の sein は \_\_\_\_\_ をうけている。sein は、人・物に関係なく、( )性名詞や( )性名詞をうけることに注意しよう。
- Weg は( )性名詞なので、seinen Weg は4格である。4格名詞は目的語となることが多いものの、ここでは——日本語としては分かりにくい——( )詞として使われている。geht が( )動詞だからである。

訳

### Übung 2 和訳しよう。

- Keine Antwort ist auch eine Antwort. (*Cicero*)
- Der Kampf ist mein Leben. (*Nelson Mandela*)
- Unser Leben ist eine Schöpfung unseres Geistes. (*Buddha*)
- Bücher haben ihre Schicksale. \*諺
- Die Wissenschaft ist der Verstand der Welt, die Kunst ihre Seele. (*Maxim Gorki*)
- Jeder Affe liebt seine Jungen. \*諺
- Der Charakter des Menschen ist sein Schicksal. (*Heraklit*)
- Der Mensch ist dem Menschen ein Wolf. (*Plautus*)
- Eines Tages kommt die Zeit. (*Marcello Alexander*)
- Alles Ding währt seine Zeit. (*Paul Gerhardt*)

★ 副詞は、動詞や文を修飾することが多いものの、あらゆるものを修飾できる。

★ ドイツ語の名詞では、（複数も含め）性と格に注意しよう。

### 1 nicht の用法

1-39

① nicht は、原則として、直後の要素を否定する。

Fragen sind immer der Mühe wert, Antworten **nicht** immer.  
*(It is always worth while asking a question, though it is **not** always worth while answering one.) (Oscar Wilde)*

Angst ist **nicht** real.  
*(Fear is **not** real.)*

Genauigkeit ist noch lange **nicht** die Wahrheit.  
*(Exactitude is **not** truth.) (Henri Matisse)*

※ nicht は特定の要素を否定するがゆえに、何かとの対比を含意する。補語があるとき (上の real や die Wahrheit)、nicht は補語の前に置かれるが、これも同様である (否定されても何ものでもないということはありませんがゆえに、「～ではなく、…である」という対比を含意する)。

② 文末の nicht は定動詞を否定する (ドイツ語の文の構成を思いだそう (⇒ S.2 2 ①②))。

Geld stinkt **nicht**. ← 不定詞句: nicht stinken  
*(Money does **not** stink.) (Vespasian)*

### 2 unser, euer の格変化における -e- の脱落

1-40

格	m.	n.	f.	pl.	m.	n.	f.	pl.
1	unser	unser	uns[e]re	uns[e]re	euer	euer	eu[e]re	eu[e]re
2	uns[e]res	uns[e]res	uns[e]rer	uns[e]rer	eu[e]res	eu[e]res	eu[e]rer	eu[e]rer
3	uns[e]rem	uns[e]rem	uns[e]rer	uns[e]ren	eu[e]rem	eu[e]rem	eu[e]rer	eu[e]ren
4	uns[e]ren	unser	uns[e]re	uns[e]re	eu[e]ren	euer	eu[e]re	eu[e]re

※ -e- が落ちるのは、アクセントを欠く母音の連続を避けるためである。(⇒ S.4 1 ※ 2)

### 3 不規則変化名詞

1-41

格	sg.	pl.	sg.	pl.	sg.	pl.
1	der Name ( <i>name</i> )	die Namen	der Glaube ( <i>belief</i> )	die Glauben	der Wille ( <i>will</i> )	die Willen
2	des Namens	der Namen	des Glaubens	der Glauben	des Willens	der Willen
3	dem Namen	den Namen	dem Glauben	den Glauben	dem Willen	den Willen
4	den Namen	die Namen	den Glauben	die Glauben	den Willen	die Willen

格	sg.	pl.	sg.	pl.
1	das Herz ( <i>heart</i> )	die Herzen	der Herr ( <i>mister</i> )	die Herren
2	des Herzens	der Herzen	des Herrn	der Herren
3	dem Herzen	den Herzen	dem Herrn	den Herren
4	das Herz	die Herzen	den Herrn	die Herren

※ Herz のみは中性名詞である。

### Übung 1

次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-42

Nicht leicht wechsele ich den Herrn. \*諺

- この文の定動詞は\_\_\_\_\_であり、その不定詞は\_\_\_\_\_である(⇒ S.4 1 ※ 4)。
- den Herrn は( )数( )格である。Herrn は定冠詞 den に後続し、-n で終わっているが、複数 3 格ではないことに注意しよう。
- Nicht は( )を否定する。ここで否定されているのは\_\_\_\_\_である。

訳

### Übung 2

次の文を見て、( ) に日本語を、\_\_\_ にドイツ語を補い、和訳しよう。

1-43

Gaben macht der Wille gut. \*諺

- この文の定動詞は\_\_\_\_\_である。主語となるのは、1 格にしかない\_\_\_\_\_である。不規則変化名詞は、使用頻度が高いので覚えておいた方がよい。
- Gaben は macht の( )語である。gut は扱いに困るかもしれないが、主語・動詞以外に複数の要素があるとき、そこに 1 つの文が考えられることを思いだすなら(⇒ S.9 Übung 1b.)、次のような文が潜在的に含まれると考えると分かりやすい。  
 Gaben \_\_\_\_\_ gut.

訳

### Übung 3

和訳しよう。

1-44

- Humor ist keine Gabe des Geistes, er ist eine Gabe des Herzens. (*Ludwig Börne*)
- Das Wunder ist des Glaubens Kind. (*Goethe: Faust*)
- Das Auge des Herrn macht das Vieh fett. \*諺
- Beten ist gut, es macht das Herz froh. (*Dostojewski*)
- Ordnung machen ist nicht schwer, Ordnung halten aber sehr. \*諺
- Die Wahrheit ist die Tochter der Zeit, nicht der Autorität. (*Brecht: Leben des Galilei*)
- Nicht der Krieg ist revolutionär, der Friede ist revolutionär. (*Jean Jaurès*)
- Ich gehe nicht euren Weg. (*Nietzsche: Also sprach Zarathustra*)
- Die Muse ist auch dem Dichter nicht immer günstig. (*Hegel*)
- Nicht jede Wolk' erzeugt ein Ungewitter. (*Shakespeare: König Heinrich der Sechste*)  
 ※ Wolk' = Wolke

★ unser, euer の -er や ihr, Ihr の -r の母音化 (⇒ S.iii 5) は、語尾がついたとき無効となることに注意しよう。  
 unser (ウンザー) → unsere (ウンゼレ)